

44 明治43～大正元年 草津町湯ノ沢集落移転に係る編綴書類

【知事 94A 1237】「草津町湯ノ沢移転に関スル書類」

明治四十四年六月二十六日

群馬県警察部長 ○○○○ 印

群馬県知事 神山 閏次 殿

草津町特種部落移転ニ関スル状況、別紙ノ通ニ有之候条及復命候也

復命書

県下草津温泉ノ状況

草津温泉ハ、遠ク人皇十二代景行天皇ノ御代ニ発見セラレタルモノニシテ、治病ノ効能著ナリト伝ヘラレ、広ク全国ニ其名ヲ知ラル、殊ニ癩毒及癩ノ患者ニ特効アリ、各国ヨリ来リテ入浴スルモノ頗ル多シ、而シテ今ヨリ二十年前迄ハ、癩患者モ他浴客ト共同入浴シ、且雑居シ居リシモ、年々歳々癩患者ノ増加スルニ随ヒ、他ノ一般浴客ハ其不潔醜態ニ堪ヘスシテ、漸次減少ノ傾向ヲ呈シタルヨリ、草津町民ハ茲ニ一大決心ヲ以テ癩患者隔離ノ儀ヲ起シ、遂ニ去ル明治十九年同町字湯ノ沢ニ移転セシメタリ、然ルニ癩患者ハ日ニ月ニ増加シ、湯ノ沢ヲ根拠トシ一家ヲ構成スルモノ弥々益々多キニ至リ、終ニ当時相当ノ距離ヲ保チタル健康地ト軒ヲ並ヘ、今ヤ又去ル十九年移転前ト同様ノ状態ニ立至レリ、而シテ癩患者部落ノ生活単純ナルニ反シ、一般町民ハ浴場ノ改善ニ、或ハ旅舎ノ改良ニ、或ハ道路ノ改修等ニ、多大ノ費用ヲ投シ経営セサルヲ得サルニ反シ、癩患者ノ益々増加スルニ伴ヒ、一般ノ浴客ハ年々減少ノ奇観ヲ呈シ、漸次萎微振ハサルニ至レリ、之レ畢竟癩患者ノ増加カ健康地ニ圧迫ヲ及ホシ、浴客ニ不快ノ念ヲ懐カシムルコト、其重ナル原因タリ、故ニ此ノ癩病部落ヲ挙ケテ適當ノ地域ニ隔離スルコトハ、公衆衛生上極メテ重大ナル案件ナルト同時ニ、草津町民ノ利害ニ深甚ナル関係ヲ有スル問題ナリトス

特種部落移転ノ必要

前述ノ如ク癩患者ノ集団セル特種部落ハ漸次発展シ、現今戸数九十一戸（朱書、九十六戸）、人口二百二十名（朱書、二百三十四名）、及之ニ寄寓セルモノ八十四名（朱書、百三十四名）、合計人員三百四名（朱書、三百六十八名）ニシテ、昨四十三（朱書、四）年中癩患者ノ入浴数ハ、実ニ八千六十五名（朱書、二万四十名）ナリキ、此浴客ニ対スル諸般ノ需用供給上、旅舎料理店飲食店及之ニ伴フ各営業者ノ増加ハ勢ヒ免ル可カラサルナリ、故ニ漸次家屋ヲ建設シ、終ニ健康地ト軒檐相接シ、町民ハ自由ニ交通スルニ至レリ、殊ニ明治四十年癩予防法ノ發布以来一層社会ノ注意擯斥ヲ受クルヨリ、彼レ等ハ一家一門ノ面目ヲ保ツカ為メ、郷里ヲ去リテ此地ニ来リ余生ヲ送ラントスルモノ、日ヲ追フテ増加ノ傾向ヲ呈シ、益々膨大ナル発展ヲ遂ケツ、アリ、而シテ普通部落トノ交通ハ、郵便貯金信書ノ発送、金銭貸借等止ムヲ得サルモノアリ、又地域接続セルヲ以テ中流以下ノ者ハ平然トシテ交通シ、極メテ寒心スヘキ状況ナルヲ以テ、其移転ハ公衆衛生上極メテ緊要ノ事ニ属ス

移転地ノ施設及実行

叙上ノ現象ナルヲ以テ之カ移転ハ、草津町現下ノ急務ナリト雖モ、又彼等ノ生命トセル温泉ヲ該移転地ヘ有効ニ引用スルニアラサレハ、到底之カ実行ハ不可能ナルヲ以テ、之ニ対スル設備ノ計画如何ヲ調査スルニ、温泉ノ温度ハ百四十五度ノ高度ニシテ、湧出地ヨリ移転地迄ノ距離約二十町ナリ、此間木管ヲ布設シテ引用セハ温度二十度減少スルモ、尚百二十五度ノ高度ヲ保ツコトヲ得、其効力ハ毫モ減少スルコトナシト専門家ハ言明セリ、而シテ移転候補地ハ、既ニ特売ヲ出願セル国有林ノ一部ニシテ、特種部落ヲ距ル約十八町余東北ニ位シ、海拔四千五百尺ノ高平原ニシテ、空氣清良眺望絶佳、遠ク村落ヲ離レ天涯無人ノ地域ナリ、其設備トシテハ温泉ヲ引用シ、宅地及畑地ヲ無料貸与シ、且移転料トシテ一戸約金二百円内外ノ補助費ヲ給与シ、小公園ヲ造リテ彼等ノ遊園地ニ当テ、防風林遮断林ヲ設クル等諸般ノ設備ヲナシ、新市街ヲ形成シ、悠々余生ヲ送ルニ適當ナル場所トナシ、徐々ニ彼等ニ移転ヲ勧誘セハ、法律上之ヲ強制スルノ途ナシトスルモ、優ニ其目的ヲ達シ得ヘキ見込ナリ、此計画ニシテ実行セラル、暁キハ、全国中癩患者ノ保養地トシテ稀ニ見ル絶好ノ場所ナリト信ス

右移転ニ要スル経費ハ二万五千円（朱書、約三万円）ノ予算ニシテ町債ニ依ルノ計画ナリ、而シテ草津町カ之ヲ償還スルニ堪ユル財源ヲ有スルハ、別紙復命書ノ通り也

第四三一六号ノ四
明治四四年八月卅日

知事名

農商務省山林局長殿

国有原野特売ニ関スル件回答

本年七月十四日付林第三七九九号照会首題ノ件、左記及回答候也

- 一、移転実行ニ就テハ未タ确实ニ実行シ得ヘシト認ムル資ナシト雖モ、曩ニ回答セシ如ク該部落中重モナルモノハ、宿屋営業者ノ十二戸ニシテ、内十一戸ハ移転ヲ承諾シ居リ、且ツ同部落ニ土地家屋ヲ所有スル患者ハ二十五人アルモ、其重モナルモノハ是亦何レモ宿屋営業者ナルヲ以テ之レヲ移転セシムレハ、自然他ノ患者モ付随移転スヘク、尚ホ右移転ニ就テハ一戸平均約二百円内外ノ補助ヲナシ、別紙設計書ノ如ク移転地ニ諸般ノ設備ヲナスニ於テハ、移転ハ容易ニ実行シ得ベシ
- 二、移転目的地過大ナルニ依リ、設計書訂正方御照会ニ依リ、別紙ノ如ク変更セシメタリ
- 三、起債ノ利子ハ低廉ナルカ如シト雖モ、右ハ内務大蔵両省通牒ニ基ク低利資金ノ貸付ヲ受クルノ計画ナルヲ以テ成立ノ見込ナリ
- 四、町債償還ノ財源ニ就テハ、本県ニ於テ実地ニ就キ精査シタルモノニシテ、回答セン如ク相違無之、尚ホ償還ノ為メ要スル増徴額ヲ合セ、戸別割一戸平均十円トナサントスルモ、昨年度既ニ平均一戸十円余ナルヲ以テ、他日増徴ヲ要スル如キコトナキヤト云フニアルモ、昨年度ハ県下稀有ノ大洪水ヲ受ケ、通路橋梁破壊流失等ノ為メ、其復旧工事ニ要シタル経費ニ追加ヲナシ、一戸平均一円七十二銭余ノ増徴ヲナシタルモノニシテ、特別ノ事由ニ依リ昨年度ニ於テハ十円二十九銭余リ徴収シタルモ、他日天災地変等特別ノ事故生セサル限りハ、増徴ヲナスカ如キ要ナカルヘクト認ム

林第三七九九号

明治四十四年七月十四日

農商務省山林局長 ○○○○ 印

群馬県知事 神山 閏次 殿

明治四十四年七月三日付衛第四三一六号ノ回答要存置原野特売ノ件ニ付、左記事項申出相成度、右照会ス

記

- 一、移転确实ニ実行シ得ト認メラルヘキ資料ナキヤ
 - 二、目的地（六十町四反五畝廿五歩）ハ、尚過大ナルカ如ク認ムルニ依リ、曩ニ東京大林区署員実査ノ際認メタル三十四町八反余歩（当時出願者之ヲ承認ス）ノ位置及区域ヲ最大限度トシ、更ニ設計書提出セシメラレ度
 - 三、五分八厘ノ利子ハ、低廉ナルカ如ク認メラル、モ尚成立十分ナリヤ
 - 四、町債償還ノ財源費回答書ト吾妻郡長宛町長報告書ト一致セス、孰レカ真ナリヤ、若シ報告書ノ通りトセハ、其増徴率如何、又回答書ノ通りトセハ、本年度戸数割ハ町債償還ノ為メニスル増徴額ヲ合セ、一名平均十円ト為サントスル趣ナルモ、昨年度分ハ一名平均十円二十九銭余ナルヲ以テ、他日増徴ヲ要スルカ如キコトナキヤ
- 以上

明治四十四年六月廿九日

知事名

山林局長宛

本年三月七日林第三七九九号ヲ以テ、草津町在住癩患者移転候補地トシテ、国有林特売ノ件ニ関シ御照会ノ趣キ了承詳細調査候処、左記ノ通りニ有之候条、可然御処理相成候様致度、此段及回答候也

一、草津町字湯ノ沢ニ集団セル癩患者ノ部落ハ年々増加發展シ、現今戸数九十一戸、人口二百二十名、及之ニ寄寓セルモノ八十四名、合計三百四名ニシテ、昨四十三年中癩患者ノ入浴数ハ実ニ八千六十五名ナリ、殊ニ癩予防法ノ發布以來、彼等ハ一層社会ノ注意擯斥ヲ受クルニ依リ、一家一門ノ面目ヲ保ツカ為メ、郷里ヲ去リテ此地ニ来リ余生ヲ送ラントスルモノ、日ヲ追ッテ増加ノ傾向ヲ呈シ、当初健康地ト相当ノ距離ヲ保チタルニ、今ヤ軒檐相接シ、町民ハ自由ニ交通スルニ至リ、公衆衛生上極メテ寒心スヘキ状態ニアル而已ナラス、此勢ヲ以テセハ、漸次癩患者ノ為メニ圧迫セラレ、草津町ハ益々衰運ニ傾クヲ以テ、今回町議ニ依リ該部落ヲ挙ケテ適當ノ地ニ移転セシメントスルニアリ、而シテ之レカ移転ニ就テハ、現行法上強制スヘキ明文ナキモ、候補地トシテ特売ヲ出願セル地域ハ、草津町ノ人家ヲ隔ル約十八町、海拔四千五百尺ノ高平原ニシテ、空氣清良眺望佳絶ニシテ保養ニ好適ノ地ナルノミナラス、其設備トシテハ温泉ヲ引キ小公園ヲ築造シ、防風林遮断林ヲ設ケ、宅地畑地ヲ無料貸与シ、且ツ移転料トシテ一戸約二百円内外ノ補助費ヲ給与シ、彼等カ悠々余生ヲ送ルニ適當ナル場所タラシムル計画ナルヲ以テ、任意移転ハ困難ニアラサルヘキ見込ナリ

二、本移転ニ要スル費用ハ予算二万五千元ニシテ、町債ニ依リ二十ヶ年償還ノ計画ナリ、而シテ草津町カ之ヲ償還スルニ堪ユルヤ否ヤヲ調査スルニ、五分金ノ低利資金ノ供給ヲ受クルモノトシ、一年貳千百余円ノ償還資金ヲ得レハ足レリ、而シテ之レカ財源トシテ

(一) 戸別割ノ増徴 (一戸平均拾円ト為ス)

此増徴 參百拾円

(二) 財産蓄積金繰入

此年額 五百円

(三) 其他補助費ニ於テ其必要ヲ認メサルモノヲ転用ス

此年額 壹百五拾円

(四) 浴室使用料増徴 (現下ノ料金ヲ八厘以内増徴ス)

此増徴額 千六拾円五拾五錢

(五) 温泉使用料増徴

此増徴額 貳百貳拾五円

此使用料年額五円ヲ貳十五円ト為スハ激増ノ如キモ、之レハ所謂各旅店ノ内湯ト称スルモノニシテ、其収入ニ對シテハ寧ロ少額ニシテ毫モ苦痛ヲ感セス

總計金額 貳千貳百四拾五円五拾五錢

以上ノ財源ハ孰レモ住民ノ負担ヲ過大ナラシムルモノニアラス、殊ニ浴室使用料ノ如キ他温泉ニ比シ尚廉ナルカ如キヲ以テ、浴客ノ減少ヲ来スノ虞モ無之、確實ナル財源ナルヲ以テ、償還ニ堪ヘ得ルモノト認メラル、從ツテ其筋ノ許可ヲ得ラルヘキ見込ナリ

三、草津町四十二年度決算書並ニ四十三、四年度予算書写ハ別紙ノ通り

明治四十三年八月四日

衛第四三一六号

年 月 日

警察部長名

吾妻郡長宛

草津鉦泉場ニ於ケル特殊部落移転問題ニ関スル件ニ付照会

首題ノ件、左ノ通及照会候也

- 一、草津鉦泉場ニ於ケル特殊部落移転計画ヲ実行スルニ付テノ経費概算書並ニ之カ出途ニ関シ、詳細ナル説明書ヲ当該町長ヨリ提出セシメ、尚同町経済上右ノ支出ヲ為スル差支ナキヤ否取調御意見ヲ付シ、回送相成度候
- 二、前項移転用地トシテ、曩ニ其筋へ出願セシ区域ハ、広キニ過クルノ嫌アルニ付キ、實際移転上ニ必要ナル地域ニ縮小セシメ、且ツ其ノ設計ノ概要ヲ図示又ハ調査書トシテ提出セシメラレ度候
- 三、目下同町ノ用地払下希望価格ハ、多少増加セラルヘシト認メラル、ニ付、右ニ関スル同町ノ意向取調ノ上回答相成度候、以上

林第三七九九号

明治四十三年七月廿九日

農商務省山林局長

群馬県知事殿

四十二年四月十二日第二四一二号ヲ以テ癩患者入浴場設置敷地トシテ国有林特売方ニ関シ申越ノ件ニ付、左記ノ廉承知致度

- 一、目的地ニハ癩患者ノ入浴場ノミ設置スル義計リヤ、将又現在ノ所謂特殊部落ヲ挙テ転居セシムル計画ナリヤ
- 二、前項後段転住ハ勿論、前段ニ付テモ伝染病予防法第八条ノ如キ規定ナキヲ以テ、隔離ヲ強制シ得サルカ如シ、此等ノ虞ニ対シテハ如何ニ処置セラルル見込ナリヤ
- 三、第一項中何レノ計画ヲ実行スルモ、之カ経費ハ多大ナルモノト認メラル、其概算及町経済上、右ノ支出ヲ為スモ差支ナキ御見込ナリヤ、又若シ町債ニテモ存ス計画ナリトセハ、認可ヲ得ヘキ御見込ナリヤ

右照会ス

追テ前記各項差支ナシトスルモ、出願区域ヲ縮小セシメ、其設計ノ概要ヲ図示又ハ適宜調査越シ相成度、尚目下町ノ払下出願価ハ多少増加ノ必要有之様認ム、是等ニ関シテモ何分ノ回答相成度

二第一四九九号

明治四十四年二月二十八日

吾妻郡長 ○○○○

群馬県警察部長 ○○○○ 殿

草津鉦泉場ニ於ケル特殊部落移転問題ニ関スル件ニ付回答

首題ノ件、左ノ通り及回答候也

客年八月四日付衛第四三一六号ヲ以テ御照会ニ係ル首題ノ件、別紙ノ通り該町長ヨリ取調書ヲ徴シ及回答候、而シテ本件同町今回ノ企図タル将来發展上尤モ適当ナル施設ト被認候、町債償還ニ対シテハ将来町経済上、敢テ難事ニアラサルヘキヲ信シ候条、御論議相成候様致度

明治四十四年二月十四日

草津町長 山本 與平次

吾妻郡長 ○○○○ 殿

草津鉦泉場ニ於ケル特殊部落移転問題ニ関スル取調ノ件

首題ノ件、左記ノ通り及報告ニ候也

左記

- (一) 本町特殊部落ノ移転計画ヲ決行スルニ付テノ経費概算書、別冊ノ通りニシテ之ガ出
 途ニ関シテハ貳拾ヶ年賦償還ノ方法ヲ以テ起債ヲナシ、其経営ヲ全フセントス、之カ
 償還ノ財源トシテハ、年歳本町財産ヨリ生スル浴室使用料徴収金ヲ以テ之レニ充當シ、
 別段戸別割其他ノ付加税ニ於テ賦課徴収スルコトヲ避ケ一般町債ノ緊縮ヲ図リ、殊ニ
 新事業ヲ廢シ、以テ住民ノ負担ニ大ナル重キヲ加ヘシメズシテ、町債ノ償還ヲ全フシ
 得ルコト大ナル難事ニアラズト信ズ
- (二) 本町特殊部落ノ移転候補地トシテハ、其区域広キニ過クルヲ以テ、實際必要ナル地
 域ニ縮小セシムベシトノ御達ニ依リ、綿密調査ヲ遂ゲタルモ、爾來本町ニ移住スル該
 患者ハ年々増加ノ一方ニ傾キ、尚将来益々増加スベキハ疑フベカラザル事ト信ゼザル
 ヲ得ズ、殊ニ該周囲ニハ山林ヲ造リ自然的ノ大企画ヲ立テ、一ニハ病毒ノ散漫ヲ遮蔽
 シ、一ニハ永遠ニ亘リ彼等ノ薪炭材ノ需要ヲ低廉ナラシメ、又ハ適當ナル運動場ヲ設
 ケ外部ニ散策遊歩スルノ要勿ラシメ、或ハ花卉ヲ栽培セシメ園芸上ノ趣味ヲ与へ、或
 ハ耕作ヲ為サシメ、相当ノ収入ヲ獲セシメ、其他百般ノ娛樂的設備ヲ施シ、以テ憐ム
 可キ彼等ヲシテ余命ヲ全フセシメントス、此等数多ノ目的ヲ達セントセバ、曩ニ出願
 セシ同一地域ニテモ寧ろ狹隘ヲ告グルノ感ナキヲ得ス、況ヤ之ヲ縮小スルニ於テヲヤ
 宜敷本事業ノ前途ニ向ヘ御賢慮ヲ乞ハザルベカラザルコト、抑々本問題タルヤ、
 本町積年ノ宿題ニシテ、又本町發展ノ成否ハ、一ニ本事業ノ適當ニ進行シ、且ツ永遠
 ニ亘リ其施設ノ全キト否トニ起因ス、随テ其施設頗ル繁雜多端一朝ニシテ其完成ヲ望
 マンコト、微々タル本町独力ノ能クスル所ニアラズト雖モ、本町百年ノ大計ニシテ、
 又死活問題タルガ故ニ、本町ハ勇往邁進必ス之ガ貫徹ヲ期ス、願ハクハ閣下ノ御高配
 ヲ以テ一日モ早く本目的ノ完成ヲ助長セシメラレシコト、本職ノ切ニ願フ所ナリトス
- (三) 出願用地払下ノ価格ニ多少ノ増加ヲナスハ已ヲ得ズト雖モ、之ガ完成ヲ期スル上ニ
 於テハ、其経費ハ頗ル多額ニ達シ、微々タル本町ノ財政トシテハ容易ノ事業ニアラス、
 且此企画タルヤ独り本町發展ノ施設タルノミナラス、社会人道ノ為メ將又公益ノ為メ
 棄ツベカラザル問題ナルカ故ニ、世代譲与ノ意味ヲ以テ出来得ル限り最低価格ヲ以テ
 特売セラル、様、是又閣下ノ御高配ヲ煩サ、ルヲ得サルノ事情ナリトス

湯ノ沢癩患者入浴場移転設計書

一 金貳万五千貳百七拾四円八拾七錢九厘

此内訳

金六百四円五拾八錢參厘 地所払下代金

此払下反別六拾町四段五畝廿五歩 一町当リ金拾円

金七拾壹円五錢六厘 遮断林造成費

此造林段別七町四段五歩 一坪ニ付壹本ツ、植付

樹種ハ松、落葉松ノ二種トス、苗樹惣数貳万貳千貳百五本、此代金四拾四円四
 拾壹錢、百本ニ付金貳拾錢、植栽費金貳拾六円六拾四錢六厘、百本ニ付金拾
 貳錢当リ

金參円八拾四錢 防風林造成費

此造林段別四段歩 一坪ニ付壹本ツ、植付、樹種ハ松、落葉松ノ二種トス

苗木惣数千貳百本、此代金貳円四拾錢、百本ニ付金貳拾錢、植栽費金壹円四拾四
 錢、百本ニ付金拾貳錢当リ

金千七百四拾円也 市街地整理費

内

金千五百円也 街路開鑿費

此新設延長間数七百五拾間、幅拾間ニシテ一間ニ付金貳円当リ

金貳百四拾円也 宅地開墾費

此段別貳町歩 一段歩ニ付人夫參拾人トシ壹人金四拾錢当リ

金六百參拾八円四拾錢 畑開墾費

此段別五町參段貳畝歩 一段歩ニ付人夫參拾人トシ壹人金四拾錢当リ

金五百貳拾壹円 新道開鑿費

新道開鑿 延長拾七町貳拾貳間、幅貳間ニシテ壱間ニ付金五拾錢当リ
 金貳百四拾円 水路新設費
 水路新設 延長貳百間ニシテ口径五寸ノ木樋ヲ用ユ
 此埋込人夫手間共一間金壱円貳拾錢当リ
 金貳千八百五拾六円也 温泉引用費
 温泉引用 延長拾七間ニシテ口径八寸ノ木管ヲ用ユ
 此埋込人夫手間共壱間金壱円參拾錢当リ
 金壱万五千六百円 家屋移転費
 移転スヘキ家屋七拾八棟（共同浴室二棟、消防器具置場壱棟ヲ含ム）ニシテ、一
 棟平均金貳百円当リ
 金參千円 移転跡私有地買上金
 買上ベキ私有地壱町歩ニシテ、壱畝歩ニ付金參拾円当リ
 合計金貳万五千貳百七拾四円八拾七錢九厘

備考

一 移転地ニ於ケル区画ハ別紙ノ通りニシテ、其段別ハ左記ノ如シ

実測惣段別六拾町四段五畝廿五歩

内

七町四段五歩 遮断林造成費

四段歩 防風林造成費

拾七町貳段壱畝貳拾歩 市街地

貳町歩 宅地

五町參反貳畝歩 畑開墾地

貳拾八町六段貳畝歩 薪炭林地

但シ市街地拾七町貳段壱畝貳拾歩ノ内、街路ヲ除キタル残余地約拾壱町六段余ハ市街地
 付属地トナシ、教会堂公共建物敷地及墓地火葬場等ニ充ツルモノトス、尚薪炭林造成
 ニ付テハ別ニ設計費ヲ計上セサルモ、右ハ雜木密生地ニシテ薪炭材料ニ差支ナキヲ以
 テナリ

二 移転ニ要スル財源ハ、別紙議決書ニ明記ノ如ク全部町債ニヨルモノトス

三 払下段別ヲ訂正シタルハ、曩ニ其筋ヨリ実地調査ノ結果、平坦地ノミニ訂正スベキ旨
 内示アリタルニ依リ、実測ノ上之レヲ訂正セシモノナリ

四 本設計書ハ其概要セルヲ以テ払下ノ許可アリタル上ハ、尚綿密周到ナル調査ヲ遂ゲ、
 急速ニ之レニ着手スルモノトス

五 設計書中公園費ヲ計上セザルハ、遮断林ノ一部ニ人工ヲ加ヘ之ヲ造成スル目的ナルヲ
 以テナリ

(実測図省略)

第一号議案

湯ノ沢浴場移転ニ要スル起債ノ件

本町大字草津村字滝尻原甲六百四拾一番外壱筆国有原野ノ特売ヲ得ルニ於テハ、二十年賦
 償還ノ方法ヲ以テ大凡金貳万五千元ノ町債ヲ起シ、湯ノ沢浴場移転ヲ為サントス

明治四十三年七月四日提出

草津町長 山本 與平次

草津町会議事録（抄録）

七月四日午前十一時開会

出席議員

壱番 中澤 市郎次

貳番 神林 二平
参番 黒岩 誠一郎
四番 山本 與平次
八番 宮崎 五郎平

議長開会ヲ宣告ス

一 議事ノ顛末

一 湯ノ沢浴場ニ要スル起債ノ件

議長曩ニ払下出願ニ係ル大字草津村字滝下原国有原野ニ対シ、六月二十八日ヲ以テ東京大林区署ヨリ町會議決書及設計書提出方照会ニヨリ回答ヲ要スルニ付、茲ニ提出シタル次第デアリマス、書記ヲシテ議案ノ朗読ヲ為サシム

書記ノ朗読

一番原案ニ異議ナシ

議長採決ス、異議ナキニ付、原案ニ決ス

議長引続キ二次会ヲ開ク

三番異議ナシ、且ツ二次会ヲ以テ確定議トセラレンコトヲ望ム

貳番、参番ニ同感

八番同上

議長採決ス、異議ナキニ付原案ニ決シ、且ツ二次会ヲ以テ確定議ト為スニ決ス

明治四十四年二月十日

衛第四三一六号

年 月 日

警察部長名

吾妻郡長宛

草津鉦泉場ニ於ケル特殊部落移転ニ関スル件照会

客年八月四日附衛第四三一六号ヲ以テ及照会置候首題ノ件ニ対シ、客年十二月二十八日附再応御照会ノ処、于今御回答無之、処理上差支候条、至急御回答相成度、此段重ネテ及照会候也

明治四十三年十二月廿八日

衛第 号

年月日

警察部長名

吾妻郡長宛

草津鉦泉場ニ於ケル特殊部落移転ニ関スル件再照会

本年八月四日附衛第四三一六号ヲ以テ為照会候首題ノ件ハ、于今回答無之、事務処理上ノ都合有之趣ヲ以テ、主務省ヨリ督促ヲ受ケ候ニ付キ、至急回答相成度、此段及照会候也

二四一二号

明治四十三年四月十一日

国有原野特売ニ関スル件

農商務省山林局長宛

知事

県下吾妻郡草津町長ヨリ、去ル四十一年一月中同町大字草津村字滝尻原国有原野反別百貳

町四反壹畝貳拾四歩ニ対シ、東京大林区署長へ特売出願候処、未タ許否ノ指令ニ不接候得共、従来同町温泉ニハ癩病患者入浴場トシテ字湯ノ沢ト称スル一廓有之、普通入浴場ト全然区画シアリシモ、近来住民ノ増加ニ伴ヒ、自然家屋接続スルニ至リ公衆衛生上頗ル不安ノ憂有之、該患者入浴場ヲシテ相当隔離セル位置ニ移転スルノ必要ヨリ、右国有原野ノ払下ヲ受ケ、之ニ充当スルノ外、他ニ適當之ケ処ノ無之為メ特売出願セシ義ニシテ、猶今回同町長ヨリ請願ノ次第モ有之、事情不已得モノト認メ候ニ付、何分ノ御詮議相成候様、屹度此段申達候也

一第九二〇号

郡内草津町長ヨリ別紙ノ通り請願書差出ニ付取調候処、従来同温泉ニハ癩患者入浴場トシテ字湯ノ沢ト称スル一廓有之、普通入浴場ト充分ナル間隔アリシモ、近来住民ノ増加ニ従ヒ、自然家屋接続スルニ至リ、公衆衛生上頗ル不安ノ憂有之候ニ付、該患者入浴場ヲシテ尚一層隔離セル位置ニ移転セシメ、病毒ノ散漫ヲ防キ、以テ多数入浴客ヲシテ安ジテ滞浴セシムルノ方法ヲ講ズルハ、同温泉ノ發展上焦眉ノ急務ナルハ勿論、同町亦数年来ノ計画ニ有之候、右移転ノ候補地トシテ字滝尻原国有原野ヲ以テ、最モ適當ト被認候ノミナラズ、之ガ移転ニ就テハ頗ル多額ノ経費ヲ要スル様ノ場合ニ付、当該国有地ヲ無代下付ノ恩典ニ浴シ度儀ニ候様、特ニ御配意相仰度、此段副申候也

明治四十三年三月卅一日

吾妻郡長 ○○○○ 印

群馬県知事 神山 閏次 殿

發第三五四号

請願書

本町ハ郡ノ西北端ニ位シ、海拔四千五百尺、土地高燥風景雄大壯麗ニシテ空氣常ニ清新、之レニ加フルニ温泉湧出ノ量多大無限、真ニ理学的療養地トシテ適當ナルコト、全国其比ヲ見サル所タルハ、夙ニ医学社会ノ公認スル処タリ、一朝之ヲ開發シ適當ノ施設ヲ加ヘンカ、其發展蓋知ル可ラサルモノアラン、空シク之ヲ吾妻ノ一小温泉トシテ放任センコト唯リ本町ノ不利益タルノミナラス、又県ノ不利益タルコトヲ失ハサルベシ、殊ニ本町住民ハ温泉ノ天恵ニ依リテ、生活ノ基本ヲ立ツルモノナルガ故ニ、温泉場ノ施設經營ハ本町唯一ノ事業ニシテ、之レガ成否ハ即本町ノ盛否タリ、而シテ其施設タルヤ頗ル繁雜多端、一朝ニシテ其完成ヲ望マンコト微々タル、本町独力ノ能クスル所ニアラズト雖、現下尤モ急速ニ決行セサル可カラサルハ、当泉字湯ノ沢ニ現存セル癩患者入浴場ヲ移転セシムルヨリ急要ナルモノ又アラサルナリ、従前ハ其集团区域ト本町トハ充分ナル間隔ヲ有シタリカ故ニ、左迄憂フ可キニアラサリシカ、住民ノ増加ニ伴ヒ自然ニ家屋接続櫛比スルニ至リシハ已ヲ得サルニ出ツルト雖、大ニ憂フ可キ事タリ、該病ノ已ニ伝染性タル事ヲ、医学上ニ於テ断定セラルルノ今日ニ至リテハ、該患者入浴場ヲシテ尚一層隔離セル位置ニ移転セシメ、完全ニ病毒ノ散漫ヲ防止シ、多数来浴者ヲシテ安ンシテ滞浴セシムルノ手段ヲ講スルハ焦眉ノ急タルト共ニ、一方ハ彼ノ無告ナル憐ム可キ患者ヲシテ、或ハ花卉ヲ栽培シ、或ハ造林ニ、或ハ園芸ニ、各自ノ好ム所ヲ為サシメ、其他百般ノ娛樂的設備ヲ施シ、以テ余命ヲ全フセシメンコト、社会人道ノ上ヨリシテ、当ニ努メサル可ラサルノ事タルカ、故ニ本町ハ之レカ移転費ヲ約貳万円ト概算シ、一廓ノ地トシ、別紙計画書ノ通り之レヲ斷行セントス、其候補地トシテハ字滝尻原国有原野ノ最モ其適當ナルヲ認メタリ、該地ハ現今該患者入浴場ノ下方ニ位スル平原ニシテ、其面積百数十町歩ニ跨リ、当町ヲ距ル約貳拾町、其間山林原野及小山脈ノ之レヲ横切ルアリテ、自然ノ境界ヲ為スカ故ニ、其病毒ヲ防止スルニ於テハ充分ナリトス、曩ニ本町ノ此地ヲ以テ候補地ト予定シタルハ、浴場トシテ總テノ点ニ於テ欠クル処ナキヲ認メタルニ依レリ、他ニ面積水利等ニ於テ同一ノ地点ナキニアラズト雖、温泉引用ニ不便ナルカ、又ハ遠距離ニシテ中途温泉冷却スルノ怖アリテ一長一短、滝尻原ノ外之レカ適當ナル者他ニ求ムルコト能ハズ、依テ本町ハ已ニ四十一年一月中、其特売ヲ

東京大林区署へ申請シタリシモ、于今聴許セラレズ、偶々聞ク処ニ依レバ、該候補地ヲ今回造林地ニ編入起業セラレントスト、果シテ聞クガ如クンバ、該患者入浴場ノ移転ヲ決行スルコト能ハサルニ至リ、本町ガ今日迄予期セシ事業ハ全ク空想ニ帰シ、日本屈指ノ本泉ハ永久ニ發展スルノ期ヲ失ヘ、温泉場トシテ起ツ能ハサルニ至ランコト灼熱タル事ナリトス、依テ該候補地ノ不要存置ト要存置タルトヲ問ハズ、閣下ノ御高配ヲ仰キ一日モ早ク之レガ無代払下ノ恩命ニ浴スル様、御詮議相成度願意徹底ノ上ハ、諸般ノ施設ヲ速ナラシメ、本泉ヲシテ益向上發展セシメンコト、本泉ノ幸福タルノミナラズ、本邦理学的療法ノ上ニ貢献スル所又尠少ニアラサルベケン、茲ニ計画書相添此段請願候也

明治四拾參年參月貳拾參日

吾妻郡草津町長 山本 與平次 印

群馬県知事 神山 閔次 殿

湯ノ沢瀨患者入浴場移転計画書

一 移転候補地

吾妻郡草津町大字草津村字滝尻原国有原野
反別百貳町四反壹畝廿四歩

内訳

市街地	貳拾町
新旧宅地	五町
畑	五町
公園	參拾町
山林	四十二町四反壹畝廿四歩

一 移転費概算額 金貳万六千貳拾円

内訳

道路開鑿費	金六百元
延長二十町 幅二間 一間二付金	五拾錢
水路新設費	金參百元
延長二百間 一間二付枹管費及敷設費トモ	金壹千五百拾錢
温泉引用費	金貳千五百貳拾円
延長九百間 一間二付木管代及敷設費トモ	金貳千八百拾錢
浴室移転費	金貳百元
浴室二ヶ所 移転費	
宅地整理費	金六百元
面積五町歩 一町歩ニ付金	百貳拾円
畑開墾費	金六百元
面積五町歩 一町歩ニ付金	百貳拾円
公園設備費	金參百元
面積三十町歩 一町歩ニ付金	拾円
山林費	金五百円
面積四拾二町四反壹畝廿四歩ニ対スル造林費	
家屋移転費	金壹万貳千円
戸数六十戸 一戸平均金	貳百円
私有地買上代	金三千円
宅地一町歩 一反歩ニ付金	參百円

方法書

一 道路開鑿ニ就テハ、本町大字草津村字大石原ヨリ船ノ尻ヲ經テ現村ニ回スル、延長千貳百間幅二間ノ単線ニシテ途中岩石ナリ、又架橋ノ必要ナシ、路面ニハ砂利敷ヲナシ、

両側ニ溝渠ヲ設クルモノトス、本線ニ依ル時ハ該患者ハ市街地ヲ回遊セスシテ現場ニ達スルモノナリ

- 一 水路新設ニ就テハ、新市街地ヲ去ルニ百間ノ山林中ヨリ湧出スル源泉ヲ引用スルモノニシテ、其途中衛生上ノ障害更ニナシ
- 一 源泉引用ニ就テハ、本町大字草津村字西町源泉湧口ヨリ口径八寸ノ木管ヲ用ヘ深ク之レヲ地中ニ敷設シテ、其源泉ノ冷却セサル方法ヲ為スモノトス
- 一 浴室移転ニ就テハ、現存スル浴室ニヶ所ヲ現場ニ移転スルモノナリ
- 一 宅地整理ニ就テハ、本地ハ平坦ナル原野ナルヲ以テ、単ニ地均ラシヲ為シ宅地ト為スモノナリ
- 一 畑開墾ニ就テハ、充分ニ之レヲ開墾シ、熟畑ト為スモノナリ
- 一 公園設備ニ就テハ、多額ノ費ヲ要スルカ故ニ、自然地ヲ使用シ之レニ花卉ヲ植栽シ、公衆ノ遊覧ヲ為サシメントス
- 一 山林ニ就テハ、立木ノ調和ヲ計ルカ為メ、西北ニ面シタル地点全部ニ植林スルモノニシテ、一ハ防風ノ目的ニシテ、一ハ将来建築材及薪炭林ト為ス目的ナリ

第二六二八号

特種部落移転問題ニ関スル副申

吾妻郡草津町大字草津村字湯之沢区住民（現癩患者部落）ヨリ、別紙請願書提出ニ付取調候処、同地温泉ハ往昔ヨリ癩患者ニ特効アルコト広ク社会ニ知ラレ、随テ同患者ノ年々来浴スルモノ多ク、往年ハ普通浴客ト區別セス雑居ナリシモ、斯クテハ他ノ浴客ノ嫌忌スル処トナリ、又癩予防ノ途モ立サル故ヲ以テ、去ル明治二十年ヨリ普通住民ノ居住スル部落ヨリ、約五町隔テタル字湯之沢（通称下町）ニ一部落ヲ設ケ、癩患者ノミ居住セシムルコト、シ、相当浴室等（町経営）ノ設備アリ、然ルニ同温泉場ハ口一年ニ発展シ、又癩患者部落ノ下町ニ於テモ亦相当ニ其数ヲ増シ、漸次相互ヨリ接近シ来リ、今日ニ在リテハ上町（普通民ノ居住地）ト下町トノ境界ナク犬牙相接シ、曩ニ隔離シタルノ実ナキニ至リ、普通浴客ノ嫌忌甚シク、為ニ同温泉ノ盛衰ニモ関係スルコト、ナリ、又癩予防上ニ於テモ捨置キ難キ状態ナルヲ以テ、前年度ヨリ同町ニ於テハ、他ノ適當ノ場所ヲ選定シ、浴場娯楽場公園等ヲ設ケ、該患者ノ居住ニ差支ナキ設備ヲナシ、之ニ移転セシメントノ計画ニテ、字滝尻原ニ於テ原野反別參拾六町八反歩ヲ買受ケ、今ヤ其ノ設備ニ着手セントスル所ニシテ、請願書ニ述フルカ如キ彼等虐待ノ意味ニテ、移転セシムルモノニ無之、從テ強制的ニ移転セシムル等ノ処置ナキノミナラス、相当優遇ノ方法ヲ講シ、任意ニ転居セシムル趣意ニ有之候条、現在ノ状況副申候也

明治四拾五年五月拾六日

吾妻郡長 ○○○○ 印

群馬県知事 依田 銈次郎 殿

請願書

我等

不幸ニシテ不治ノ難症ニ犯サレ、既ニ名利ニ離レ郷里ヲ辞シタル身ナルヲ以テ、今ハ唯北ノ天与ノ鉞泉ニ浴スルヲ以テ、唯一ノ慰安トナシ居リ候ヘバ、不平压迫無情等忍ビ得ル限リハ黙シテ之ヲ顧ミザルノ決心ニ有之候ヘドモ、余リニ残念酷薄ナル処置ニ対シテハ、忍バント欲シテ忍ブ能ハザル処ニ御座候、依テ今般閣下ノ尊嚴ヲ冒シテ請願書ヲ奉ル如キハ其礼ニ非ラザルヲ弁ヘザルニ非ズト雖モ、今ヤ我等安住ヲ根柢ヨリ覆サントスルノ企図アルヲ発見致シ候ニ付キ、余儀ナク茲ニ我等住民一同連署セル請願書ヲ奉リ候也

明治四十三年七月四日、草津町町会ニ於テ為セル決議ニ依レバ、同町ハ癩予防ノ理由ノ下ニ、我々患者ヲシテ唯一ノ慰安地ニシテ且ツ第二ノ故郷タル現在ノ居所ヲ追放シ、遠ク隔リタル原野ニ居住セシメントシ、既ニソノ費用トシテ式万五千円借入レノ件ヲ決議シ、進ンデ上級官庁ニモ夫夫其手續ヲ運ヒタルヤニ聞及ビ申候

元来、草津町ニ於ケル前陳ノ企図ハ、当地ノ内情ヲ悉知セザルニ於テハ、或ハ至当ト認メラルルヤモ計リ難ク候ヘドモ、抑モ当湯ノ沢区ハ明治廿年ニ到ル迄ハ、上町ニ於テ癩患者ト他ノ者トノ雜居ヲ為シツツアリシヲ、他客ノ嫌忌ヲ来スノ口実ヲ以テ、爾来癩患者ハ断然、上町ニ宿泊居住セシメザル条件ノ下ニ、町長ノ強制ヲ以テ離隔セラレタルモノニ有之候、然ルニ町長ノ附セル条件ハ、一モ之レヲ履行セズ、依然トシテ癩患者ヲ上町ニ隱蔽シ、私利ヲ貪リ来リシ事ハ、殆ンド公然ノ秘密ト相成リ居リ申候

其他、当区ニ対スル町ノ施政ハ実ニ其ノ慘ヲ極メ候ヘドモ、忍ンデ今日ニ到リ申候、如斯狀況ナルヲ以テ、或ハ伝染予防ノ為メ充分ナル区画ナキモノノ如ク見ユルモ、上町ニシテ前約ヲ履行シ、断ジテ癩患者ノ宿泊居住ヲ許サザルニ於テハ、現在ノ位置ヲ以テ充分ニ隔離予防ノ行ハレ居ルモノニ有之候、此ノ件ニ関シテハ、嘗テ其筋ヨリ派遣セラレタル専門家ノ意見ニ拠ルモ、現住地ヲ以テ支障ナキモノト言明セラレ申候

以上ノ諸点ヲ綜合スレバ、今回企図セル我等追放ノ件ハ、伝染予防ニ関シテハ何等ノ必要ヲ認メザル者ニ有之候、然ルニモ不拘、大金ヲ投ズルノ結果、細民ノ膏血ヲ絞リテモ、尚且之ヲ遂行セントスルノ真意ハ、癩予防其者ニ非ラズシテ他ニ有之申候、即チニ現在ノ位置ニ我々ヲ居住セシムルニ於テハ、上町ニ於ケル顧客ノ嫌忌ヲ来スル虞アリ、ニニハ富有ナル癩患ハ飽クマデモ之ヲ隱微シ、私欲ヲ貪ラントスルモノニ外ナラズ候

然ラバ我々ハ何等隔離ノ必要ナキニモ拘ラズ、上町住民ノ私欲ノ犠牲トナリテ、此ノ地ヲ去ルハ忍ビントシテ、忍ブ能ハザル処ニ御座候、サレバ茲ニ我々ハ百万財ヲ積ンデ移転ヲ強制セラルルト雖、法規ノ命ゼザル限リハ死ヲ賭シテモ尚且ツ此ノ地ヲ去ラザルノ決心ニ有之候間、憐ナル我等癩患者ノ衷心ヲ御諒察ノ上、閣下ノ御同情アル御裁断ヲ伏テ奉希上候

恐惶謹言

明治四十三年八月十七日

群馬県吾妻郡草津町大字草津町
字湯之沢区住民
(請願委員 9 名 ほか 75 名連印)

内務大臣男爵 平田 東助 殿
閣 下

秘第弍五号

特種部落移転ニ関スル件

長野原警察分署長

大正元年八月廿日

警部 〇〇〇〇 印

警務長 〇〇〇〇 殿

部内草津町特種部落移転問題ニ付、本日電話御指示ニ依リ内偵ヲ遂ケ候処、其後ノ経過左記之通りニ有之候条、此段復申ス

現町長阿部重朗、曩ニ就職後種々調査ノ結果、先年決議ニ係ル同部落移転費貳万五千元ハ、諸物価騰貴ノ今日、其不足ナルヲ覚知シ、本事業遂行ニハ少クトモ三万円ノ経費ヲ要スルナラントナシ、本年六月二十一日臨時町会ニ提出、該三万円町債募集ノ決議ヲ経タル趣ナルモ、其資金借入ニ付テハ、未タ確ニ協議成立シタルニアラス、最初低利資金借入ノ希望ヲ有シ居リタルモ、時機ヲ失シ不成功ニ了リタルヨリ、止ムナク応急措置トシテ先ツ本年度ニ要ス可キ資金壹万円位ヲ何レカノ銀行ヨリカ借入レ、不取敢事業ニ着手シ、何レ来年度ニ於テ低利資金ノ借入レヲ為シ、以テ前記町債ヲ償還ノ上、予期ノ事業ヲ遂行セント、爾来農工銀行其他ニ向テ百方交渉中ノ模様ナルモ、未タ其協議成立ニ至ラス、従テ町債償還方法ノ如キ具体的立案ヲ見サルモノ、如クナレハ、前記町会ノ決議ノ如キモ、概括的ニ本事業ヲ協賛シタルニ止マリ、資金借入並償還方法及町税賦課ノ如キハ、挙テ理事者ニ一任シタルモノ、如ク思料セラル、然ルニ其後町長阿部重朗ハ、本県選出武藤、葉住両代議

士ニ面識アルヲ幸ヒ、個人的資格ヲ以テ本事業ニ付、政府ノ補助ヲ申請スル等如何ナルモノナランカト其深意ヲ求メタルニ、何レモ相当尽力ナス可キニ付キ、兎ニ角申請書提出スル□然ル可シ云々ノ回答アリシ由ニテ、其後該申請書作製ニ付、諸材料調査中ナリシニ、偶本月十四日、武藤代議士ハ他ニ所用アリテ来草ノ際、親シク町長其他ニ面談ノ上、政府ノ補助申請ニ付テハ、其規模小シク小計画ナリ云々ト指導シ、其結果俄ニ其予算ヲ増額突如申請書ヲ提出シタルモノ、如クナレハ、元ヨリ六万円ノ予算ニ付テハ、具体的設計書アルニアラス、又正当順序ヲ経テ町会ノ決議ヲ経タルモノニアラサルモ、議員等ハ勿論、本協議ニ与リ、同意ヲ表シ居ルモノトハ思料セラレ候、尚本件ニ付テハ経過内偵中ニテ有之候得共、以上探聞ノ俛不取敢報告ス

国庫補助金下付請願書

草津温泉ノ発見ハ、遠ク神代ニ在リト云フモ邈トシテ明ラカナラス、景行天皇ノ四十年日本武尊ガ東夷征伐ノ帰途発見セラレシト言フハ信ナルガ如シ、草津総鎮守ニ日本武尊ヲ祀ツテ郷社白根神社ト崇拝シ居ルハ争ハレヌ事実ナリ、元正天皇ノ養老五年大和国菅原寺ノ僧正行基此地ニ曳錫シ、建久四年三月源頼朝浅間山麓ニ遊獵シ、山川ヲ跋涉シ地勢風土ヲ視察ノ途次入浴セシコトアリ、今ノ白旗之湯之レナリ、頼朝入浴以来幕府ノ勢ニ連レテ其名著大トナリ、僧俗ノ来浴頓ニ多ク、永禄年間武田信玄ノ上州ヲ侵シテ其領土トスルヤ、草津温泉ヲ以テ傷病者ノ療養所トナシ、現今ノ野戦病院ノ有様タラシメタルガ如シ、其万病ニ効能アルハ不思議ニシテ、夙ニ内外医学大家ノ驚嘆スル処、殊ニ古ヨリ癩病梅毒ニ特效アリトノ評全国ニ喧伝シ、其等ノ患者入浴スルモノ又少ナカラサリシ、草津温泉ハ斯ノ如クニシテ漸々發展シテ、明治ノ聖代ニ会ヒ、内外貴紳ノ来浴年々歳々其数ヲ加ヘタル為メ、名声愈々世界ニ聞ユルニ至ル、特ニ独逸ノ医学大家ベルツ博士ノ来浴ニ依リ、温泉氣候共ニ世界無比ノ称ヲ享クルモノ実ニ偶然ニアラサルナリ、而シテ癩患者ハ古来ヨリ平人ト雑居セシガ、世ノ推移ト共ニ自然的必要ニ迫リ、明治二十年十月温泉改良会ナルモノヲ設ケ、癩患ハ全部当町字湯ノ沢ニ移転セシメタリ、当時其集団区域ト本町トハ充分ナル間隔アリテ、其區別判然タリシガ、互ニ戸数人口増殖シ、現今ハ軒檐相接シテ殆ント其境界ヲ知ルニ苦シムニ至リシハ止ムヲ得サルニ出ツト雖モ、已ニ癩病ハ伝染性タルコト医学上ニ於テ公認シ、明治四十年法律第十一号ヲ以テ癩予防ニ関スル件公布セラレ、全国ニ療養所ヲ設置シ各区域ヲ定メラレタリ、蓋シ一ハ病毒ノ伝染ヲ予防シ、二ハ彼等醜態者ヲ隔離シ、多ク平人ノ眼界ニ触レシメサルノ趣旨ナランカ、当町亦法令ノ趣旨ニ則リ、町ノ東方約廿丁ノ地ヲ相シ全部之レヲ移転シ、一般来客者ヲシテ安ンジテ滞浴セシムルノ手段ヲ講スルト共ニ、一方彼レ可憐ノ患者ヲシテ諸般設備ノ地ニ於テ余命ヲ全フセシメムコト社会人道ノ上ヨリシテ、当ニ務メサルベカラサルコトナルガ故ニ、既ニ町会ノ議決ヲ経タルガ、多少患者ノ希望ヲ容レ理想的設計ヲ為シタルニ、別紙調書ノ如クニシテ其費額実ニ六万円ニ及フヲ以テ、此ニ第一期事業施設、第二期事業施設ニ区分シ、第一期施設ニ付、本年参万円ノ町債ヲ起シ其費ニ充テントノ計画ナルガ、顧レバ町費多端ノ今日、到底負担ニ堪ヘサルノ実アリ、然レ共鉄道ノ企画期年ナラズシテ完成スヘク、随フテ内外ノ貴紳来往多キヲ加フルハ、炳トシテ火ヲ見ルヨリ明カナレバ、此機ニ於テ之ヲ決行セサレバ法令ノ趣旨ヲ貫徹シ将来我町ノ發展得テ望ムベカラザル次第ニ付、何卒当町現時ノ窮境及町民ノ意衷ヲ賢察セラレ、此際全額六万円ノ半額金参万円ヲ国庫ヨリ御補助相仰キ度、参考書類添付、町民ヲ代表シテ謹而此ニ請願仕候也

大正元年八月二日

群馬県吾妻郡草津町長 阿部 重朗

内務大臣 原 敬 殿

調査書

一金六百九円也

癩患者移転地トシテ当町地内滝尻原国有原野三十四町八反歩
払下代金

一金九千四百五拾円也

湯ノ沢部落宅地総反別六反二畝廿八歩買取額 一坪当五円ノ

見込	
一金九千八百拾円也	建家九十二棟（九百十八坪）買取高 一坪拾円ノ見込
一金五千円也	移転奨励手当
一金八千円也	貸家二十棟新設代、但一棟二十坪、一坪二十円ノ見込
一金貳千円也	道路開鑿費
一金貳千円也	水道費
一金貳千円也	温泉導引費
一金壹千円也	学校設立費
一金六千円也	共同浴場二ヶ所新設費
一金壹千円也	病院設立費
一金貳千円也	公園設計費

秘第貳貳八号

草津町戸数人口其他調査ノ件

長野原警察分署長

明治四十五年七月十日 警部 〇〇〇〇 印

警務長 〇〇〇〇 殿

昨九日電話御指示ニ依ル部内草津町戸数人口其他調査候処、左記之通りニ有之候条、此段復申ス

左記

一 草津町戸数人口 四十四年末現在

本籍者

戸数 二百三十五戸

人口 男 四百九十八人

女 五百十三人

入寄留者

戸数 三十六戸

人口 男 五十九人

女 五十三人

字湯之沢戸数人口 四十四年末現在

本籍者

戸数 四十壹戸

人口 男 六十六人

女 五十六人

入寄留者

戸数 貳十四戸

人口 男 二十八人

女 二十九人

浴客数 四十四年度中（湯ノ沢ヲ除ク）

投宿人員 七千貳百貳十六人

延人員 拾貳万六千四百壹人

湯之沢浴客数 四十四年度

投宿人員 三百三十四人

延人員 貳万四拾人

一 湯之沢現住者中法医学ノ素養アルモノ

（4名 出身地、氏名、生年月等 記載）

一 諸願書署名者中現住セサルモノ

（5名 氏名 記載）

明治四十五年七月十一日

衛第三〇六一号

癩患者移転ニ関スル件

県下吾妻郡草津町ニ於ケル癩患者部落移転計画ニ関スル状況、御参考迄別紙及報告候也

年 月 日

知事名

内務大臣宛

草津温泉状況

草津温泉ハ遠ク人皇十二代景行天皇ノ御世ニ発見セラレタルモノニシテ、治療ノ効能顯著ナリト伝ヘラレ、広ク全国ニ其名ヲ知ラル、殊ニ黴毒及癩ノ患者ニ特効アリ、各国ヨリ来リテ入浴スルモノ頗ル多シ、而シテ今ヨリ二十年前迄ハ癩患者モ他ノ浴客ト共同入浴シ、且ツ雑居シ居リシモ、年々歳々癩患者ノ増加スルニ随ヒ、他ノ一般浴客ハ其ノ不潔醜態ニ堪ヘスシテ、漸次減少ノ傾向ヲ呈シタルヨリ、草津町民ハ茲ニ一大決心ヲ以テ癩患者隔離ノ議ヲ起シ、遂ニ去ル明治十九年其全部ヲ同町字湯ノ沢ニ移転セシメタリ、然ルニ癩患者ハ日ニ月ニ増加シ、湯ノ沢ヲ根拠トシ一家ヲ構成スルモノ庸々益々多キニ至リ、終ニ当時相当ノ距離ヲ保チタル健康地ト軒ヲ並ヘ、今ヤ又去十九年移転前ト同様ノ状態ニ立至レリ、而シテ癩患者部落ノ生活単純ナルニ反シ、一般町民ハ浴場ノ改善ニ、或ハ旅舎ノ改良ニ、或ハ道路ノ改修等ニ多大ノ費用ヲ投シ、経営セサルヲ得サルニ反シ、癩患者ノ益々増加スルニ伴ヒ、一般ノ浴客ハ年々減少ノ奇観ヲ呈シ、漸次萎微振ハサルニ至レリ、之レ畢竟癩患者ノ増加カ健康地ニ圧迫ヲ及ホシ、浴客ニ不快ノ念ヲ懷カシムルコト其重ナル原因タリ、故ニ此ノ癩病部落ヲ挙ケテ適當ノ地域ニ隔離スルコトハ、公衆衛生上極メテ重大ナル案件ナルト同時ニ、草津町民ノ利害ニ深甚ナル關係ヲ有スル問題ナリトス

一 特種部落移転ノ必要

前述ノ如ク癩患者ノ集団セル特種部落ハ漸次發展シ、現今戸数九十六戸、人口二百卅四名、及之ニ寄寓セルモノ百卅四名、合計人員三百六十八名ニシテ、昨四十四年中癩患者ノ入浴数ハ実ニ貳万四十名ナリキ、此浴客ニ対スル諸般ノ需要供給上、旅舎料理店飲食店及之ニ伴フ各営業者ノ増加ハ勢ヒ免ル可カラス、故ニ漸次家屋ヲ建設シ、終ニ健康地ト軒擔相接シ、町民ハ自由ニ交通スルニ至レリ、殊ニ明治四十年癩予防法ノ發布以來、一層社会ノ注意賓斥ヲ受クルヨリ、彼レ等ハ一家一門ノ面目ヲ保ツカ為メ、郷里ヲ去ツテ此地ニ来リ余生ヲ送ラントスルモノ日ヲ追フテ増加ノ傾向ヲ呈シ、益々膨大ナル發展ヲ遂ケツツアリ、而シテ普通部落トノ交通ハ郵便貯金信書ノ發送、金錢貸借等止ムヲ得サルモノアリ、又地域接続セルヲ以テ中流以下ノ者ハ平然トシテ交通シ、極メテ寒心スヘキ状況ナルヲ以テ、其移転ハ公衆衛生上極メテ緊要ノ事ニ属ス

一 移転地ノ施設及実行

叙上ノ現象ナルヲ以テ、之カ移転ハ草津町現下ノ急務ナリト雖モ、又彼等ノ生命トセル温泉ヲ、該移転地ヘ有効ニ引用スルニアラサレハ到底之レカ実行ハ不可能ナルヲ以テ、之ニ対スル設備ノ計画如何ヲ調査スルニ、温泉ノ温度カ百四十五度ノ高度ニシテ湧出地ヨリ移転地迄ノ距離約二十町ナリ、此間木管ヲ敷設シテ引用セハ、温度二十度減少スルモ尚ホ百二十五度ノ高度ヲ保ツコトヲ得、其効力ハ毫モ減少スルコトナシト専門家ハ言明セリ、而シテ移転候補地ハ既ニ特売ヲ出願シテ今回許可ヲ受ケタルハ、国有林ノ一部ニシテ特種部落ヲ距ル約十八町余東北ニ位シ、海拔四千五百尺、白根山ニ連ル高平原ニシテ、空氣清良眺望絶佳、遠ク村落ヲ離レ天涯無人ノ地域ナリ、其設備トシテハ温泉ヲ引用シ、空地及畑地ヲ無料貸与シ、且移転料トシテ一戸約金二百円内外ノ補助費ヲ給与シ、小公園ヲ造リテ彼等ノ遊園地ニ当テ、防風林遮断林ヲ設クル等諸般ノ設備ヲナシ、新市街ヲ形成シ悠々余生ヲ送ルニ適當ナル場所トナシ、徐々に彼等ニ移転ヲ勧誘セハ法律上之ヲ強制スルノ途ナシトスルモ、優ニ其目的ヲ達シ得ヘキ見込ナリ、只該患者中二三名ハ、多少法学或ハ医学等ノ教育ヲ受ケタルモノアリ、又嘗テ官吏軍人タリシモノアリ、之等ノ者カ本移転問題ヲ

奇貨トシテ不当ノ利益ヲ貪ランカ為メ、純朴ナル特種部落民ヲ扇動シ、種々ナル言説ヲ弄シ移転ノ妨害ヲ試ミツ、アルヲ以テ、或ハスル誘惑手段ニ迷ハサレ、一時多少ノ外擾ヲ醸ス無キヤヲ保テサルモ、本移転計画タルヤ前叙ノ如ク毫モ強制力ヲ用フルモノニアラス、同町ハ彼等ノ為メニ多額ノ町費ヲ投シ、完全ナル設備ヲ為シ、且ツ一戸ヲ構フル者ニハ相当ノ移転補助費ヲ与へ、猶又家屋ヲ有セサル同居者ニハ家屋ヲ建築シ、之ヲ無償ニテ貸与スル等優遇ノ方法ニ依リ、徐々ニ移転ヲ勧誘セントスルモノナレハ、意外ニ易々其目的ヲ達スルニ至ルヘシト信セラレ

第二三一八号

沿革ニ関スル調査ノ件

明治四十五年七月廿二日

長野原警察分署長

警部 ○○○○ 印

衛生課長

警部 ○○○○ 殿

昨廿一日電話御指示ニ係ル部内草津町沿革調査ノ件審調査候処、別紙ノ通りニ有之候条、此段報告ス
追テ詳細ハ別冊ニ□□□□□□□□、御参考迄送付候

群馬県吾妻郡草津町沿革

天保年間吾妻郡大戸村外四十四ヶ村大組合トシ、草津村外七ヶ村ヲ小組合トス、明治二年草津村外七ヶ村ニ肝煎名主ヲ置ク、明治四年熊谷県北第二十大区十一小区ト為リ、十一年大小区廃止後群馬県吾妻郡役所ノ管轄ニ属ス

古来分合ノコト無シ、起初詳カナラザレドモ維新以後ニ至リテモ、小雨村前口村ヲ草津村兼帯ト称シ、凡テ草津村役場ニ所管シ来リシガ、明治十二年二月小雨村ヲ分離シ、前口村ハ旧ニ依リ草津村ニ連合セリ

以前癩患者ハ字西町白旗之湯付近ニ雑居セシガ、温泉改良会ナルモノヲ設置シ、之レガ事業トシテ同患者ニ交渉シ、明治二十年十月字湯ノ沢ノ一廓ニ移転セシム

明治二十二年四月町村制実施ノ際、草津村、前口村、小雨村、生須村、太子村、赤岩村、日影村、入山村ノ八ヶ村ヲ合シテ草津村ト称ス

明治三十三年七月一日町村分離ノ結果、草津村前口村ヲ合シテ草津町ト称ス

大正元年九月七日 即日決裁進達ス

主任衛生課長 ○○警部 印

警務長

知事

内務大臣へ進達案伺

県下吾妻郡草津町ニ於ケル癩患者部落移転計画ニ関シ、同町長阿部重朗ヨリ別紙国庫補助金下付請願書提出ニ対シ其内容精査候処、本事業ニ関シテハ、去ル七月十三日衛第三〇六一号ヲ以テ報告致シ置キタル通り、該部落移転ハ草津町現下ノ急務ナルト共ニ、公衆衛生上亦看過ス可カラサル状態ナルヲ以テ、同町民ハ極力之レカ移転ニ腐心シ、既ニ経費参万円ノ起債ヲ議決シ、専ラ事業ノ進捗ヲ企及シツ、アルモ、戸数僅カニ二百六十余戸ノ小邑ニトリテハ、負担稍々過大ニシテ、加フルニ町費多端ノ今日、該移転ハ益々困難ヲ生スルヨリ、遂ニ今回国庫補助金下付請願スルニ至リシモノニテ、事情止ムヲ得サルモノト認候、斯ノ如クニ有之候条、本願御詮議相成候様致度、願書及進達候也

第八号

大正元年八月十日

吾妻郡長 ○○○○ 印

群馬県知事 依田 銈次郎 殿

国庫補助金下付申請ニ関スル副申

部内草津町長ヨリ、別紙国庫補助金下付申請書提出ニ付調査スルニ、由来草津温泉ハ癩及梅毒患者ニ特効アルコトハ夙ニ社会ニ知悉セラレ、随テ癩患者ノ来浴スルモノ年一年ニ多キヲ加ヘ、前年部落ヲ画シ癩患者ト普通民トヲ隔離セシモ、爾来同所ノ発展ト癩患者ノ増加トニヨリ現今ニテハ家屋相接シ、之レガ境界ヲ知ルニ苦ムニ至リ、曩ニ折角施設セシ隔離モ其ノ効ナキニ至レリ、内外入浴客ノ嫌悪甚シク、此俟ニ為シ置クトキハ、同町ノ發展上又一ハ癩予防上棄テ措キ難キ事情ニ迫リ、別紙申請ノ通り温泉場ニ遠ク隔離セル部落ニ相当ノ設備ヲナシ、之ニ移転セシメントスルモノニシテ、其経費予算モ巨額ヲ要シ、到底僅カニ百六十余戸ノ負担ニ堪ヘサルヲ以テ、之レガ補助ヲ国庫ニ仰カントスルニ之レアリ、元来此事業ハ固ヨリ同町發展上ヨリ起リタルコトニハ無相違モ、又一ハ癩患者予防上尤モ必要ノコト、信セラレ候間、法規ノ許ス範圍ニ於テ国庫等ノ補助ヲ得バ、充分ナル設備ヲ為スコトヲ得ルト共ニ、一面其ノ施設ニ付、政府ノ指示監督ヲ受クルコト、相成、相互ノ便宜ト思料候間、特別ノ御詮議ヲ以テ願意御許容相成様御取計ヲ得度、此段副申候也

復命書

草津町ニ集団セル癩患者ノ移転ニ関シ、其ノ費用貳万五千元ヲ町債ニ依ラントスル件ニ付、町経済ノ状況並ニ償還ノ財源等精密調査候処、別紙ノ通りニ有之候、此段復命候也

明治四十四年六月二十四日

属 ○○○○ 印

群馬県知事 神山 閏次 殿

本町ハ戸数三百五、人口千三百二十七ヲ有シ、其ノ内特種部落（癩患者ノ居住区域ヲ指ス）ニ属スルモノニシテ、戸別割ヲ免除セサルヘカラサルノ状態ニアルモノ五十六戸在住スルヲ以テ、比較的膨大ナル其ノ歳入出予算ニ対シ負担輕カラサルカ如キモ、他ノ町村ト異リ浴室其ノ他ノ使用料及財産収入、年々其ノ半額ニ達スルヲ以テ、戸別割ノ如キハ僅ニ一戸平均金八円六十五銭余（四十四年度）ニ過キサルノミナラス、付加税ノ課率ニ於テモ制限ヲ超過セス、今参照諸表ヲ示セハ

歳入出予算

年 度	歳 入	歳 出
四十二年度	12,040.408	11,510.887
四十三年度	13,336.870	13,336.870
四十四年度	14,377.400	14,377.400

使用料及財産収入

年 度	使 用 料			財 産 収 入			
	浴室	温泉	用水	屠場	樋管	貸家料	貸地料
四十二年度	6,950.680	65.000	190.000	-	-	475.100	29.300
四十三年度	6,871.190	75.000	205.000	34.500	-	780.000	29.000
四十四年度	6,685.620	75.000	215.000	43.500	21.250	700.000	26.000

現在使用料賦課ハ条例所定ノ制限高即チ十五歳以上五銭、六歳以上十五歳未滿三銭（自五月至十月）、其ノ他ノ月ハ十五歳以上三銭、以下一銭五厘（癩患者ハ総テ半額）ヲ賦課徴収ス

諸税負担一覧表

税目	金額	納税者総数ニ対スル平均一人当	総人口ニ対スル平均一人当	総戸数ニ対スル一戸当
四十三年度 国 税	3,179.925	7.571	2.423 強	13.032 強
県 税	2,223.990	5.295	1.695 強	9.114 強
四十四年度 町 税	3,100.880			

付加税課率表

年 度	地価割	所得税割	国税 営業税割	県税営 業税割	県税雑 種税割
四十二年度	百分ノ四十	百分ノ三五	百分ノ三五	五分	五分
四十三年度	九、二一 一八、	一四	一四	五分	五分
四十四年度	九、 二一、	一四	一四	五分	五分

然リト雖モ、今般計画中ナル特種部落移転所用概算額ハ貳万五千円ノ巨額ニシテ二十年ノ償還ト為シ、低利資金（五分八厘）ノ供給ヲ受ケルコト、為スモ、年々ノ償還額貳千四百四十四円三十六銭ニ達スルヲ以テ、全然戸別割ノ賦課ニ依ルヲ得ス（全部戸別割ニ依レハ一戸平均八円余ノ負担トナル）、仍テ之カ財源トシテ（四十四年度予算ニ依ル調査）

戸別割ノ増徴（一戸平均十円ト為ス）

此増徴額 310.000

財産蓄積繰入（起債ノ結果ハ蓄積ヲ為シ得ス）

此年額 500.000

其ノ他補助費等ニ於テ其ノ必要ヲ認メサルモノ

此年額 150.000

浴室使用料増徴（制限ヲ高ム条例改正ノ要アリ、計算如左表）

此増徴額 1,060.550

現在賦課	増徴	此 金	備 考
五銭	八厘	884.040	110,505 人ニ対スル八厘
三銭	四厘	16.652	4,163 人ニ対シ四厘
二銭五厘	四厘	120.000	30,000 人ニ対シ四厘
一銭五厘	二厘	2.000	100 人ニ対シ二厘
三銭	四厘	36.000	9,000 人ニ対シ四厘
一銭六厘	二厘	0.040	20 人ニ対シ二厘
一銭五厘	二厘	1.800	900 人ニ対シ二厘
八厘	一厘	0.020	20 人ニ対シ一厘

温泉使用料増徴（年額五円ヲ二十円トナス、之ハ激増ノ如キモ所謂内湯ヲ使用旅店ヨリ徴収スルモノニシテ、其ノ収入ニ対シ今迄ノ額ハ寧ロ少額ノ感アリシモノ
条例ノ改正ヲ要ス）

此増徴額 225.000

計 2,245.550

右ノ内副産物ノ収入トシテ湯の花採取料ナルモノ年々五百円以上ノ収入アルモ、現時鉱業採掘者ノ名義（鉱業法ニ於テ地方団体ニハ採試掘権ノ付与ヲ許サ、リシト云フ、尚此ノ金ハ年々神社維持費トシテ積立ヲナシ来リタルモ、本年度迄ニテ其ノ必要ナシト云フ）ト為リ居ルモノヲ、鉱業法改正ノ結果、表面町ニ於テ権利ヲ享有シ得ルヲ以テ、権利ヲ移転セントスルニ在リ、是等ハ昨年度以降有力ナル財源トナシ得ヘシト雖モ、尚研究ヲ要ス

要之以上ノ財源ハ孰モ住民ノ負担ヲ過大ナラシムルモノニモ無之、亦使用料ノ増徴ハ為ニ浴客ノ減少ヲ来タスノ虞モ無之、尚孰レモ確實ナル財源ナルヲ以テ起債ニ堪ヘ得ルモノト認メ候

以下、諸表ヲ示セハ

町有財産

一、土地十四町三反九畝十六歩	見積価格	二千百円
一、建物五百六十七坪六勺	同	一万七千四百八十円
一、町基本財産	現金	六十七円八十九錢七厘
一、小学校基本財産	同	八百三十三円三十九錢
一、罹災救助資金	同	五百八十一円七十五錢五厘
一、同	有価証券	二百七十円（額面）

町税納税状況

	四十一年度		四十二年度		四十三年度	
	賦課額	納期内未納	賦課額	納期内未納	賦課額	納期内未納
地価割	54.105	—	108.460	0.275	90.820	0.415
所得税割	104.500	—	143.260	0.700	130.980	—
国 営業税割	175.710	—	207.070	17.760	214.690	1.390
県 同	312.010	38.950	195.000	40.550	196.880	19.400
県 雜種税割	175.370	25.570	104.540	257.000	95.890	5.970
戸別割	1,423.810	200.200	1,827.060	348.020	2,516.740	702.550

住民職業別

鉦泉宿業	四十一	下宿屋業	二	木賃宿及レフ屋	三十一
雜貨店	三十	菓子商	六	豆腐屋	六
助工	五十三	料理飲食店	十一	芸妓屋	二
駄馬業	十	質屋	三	雜業	四十七

住民所得調

一年最多 二千八百円 最少 三十円
草津町一年収入貳拾万七千八百円、支出十九万五千円

収第九二一号

過日電話ヲ以テ提出方御達シ相成候、吾妻郡草津町大字草津村字滝尻原国有原野払下ニ關スル件、右ハ別冊ノ通り調製及進達ニ候也

明治四十四年十二月廿五日

吾妻郡草津町長 中澤 市郎次 印

群馬県衛生課 御中

国有原野売払願

上野国吾妻郡草津町大字草津村字滝尻原
六百四拾壹番乙国有原野

台帳面積百町四段壹畝貳拾四歩

一、実測面積參拾四町八段歩

此金六百円也 但、壹段歩ニ付、金壹円七拾五錢

一、地上立木 赤松貳本、雜木百貳拾參本

此材積 赤松九尺ノ 但、一尺ノ金五十錢 此金四円五十錢

雜木壹枝 但シ壹枝ニ付、金壹円五十錢

此代金 六円也

合計金 六百十五円也
右ハ左記ノ事由ニ有之候ニ付、前記代金ヲ以テ売払御許可相成度、国有林野法第八条第一号ニヨリ、此段相願候也

明治四十四年十一月廿四日

吾妻郡草津町長 中澤 市郎次 印

東京大林区署 林務官 ○○○○ 殿

出願事由

本町ハ郡ノ西北端ニ位シ、海拔四千五百尺、土地高燥、風景大壯麗ニシテ空気常ニ清新、之レニ加フルニ温泉湧出ノ量多大無限、真ニ理学的療養地トシテ適當ナルコト全国其比ヲ見ザル所タルハ、夙ニ医学社会ノ公認スル所タリ、一朝之レヲ開發シ適當ノ施設ヲ加ヘシメハ、其發展蓋シ知ル可カラザルモノアラン、空シク之ヲ吾妻ノ一小温泉トシテ放任センコト、唯リ本町ノ不利タルノミナラズ、又県ノ不利益タルコトヲ失ハザルベシ、殊ニ本町住民ハ温泉ノ天恵ニヨリテ生活ノ基本ヲ立ツルモノナルガ故ニ、温泉場ノ施設經營ハ本町唯一ノ事業ニシテ之レガ成否ハ即チ本町ノ盛否タリ、而シテ其施設タルヤ頗ル繁雜多端、一朝ニシテ其完成ヲ望マンコト微々タル、本町独力ノ能クスル所ニアラズト雖モ、現下尤モ急速ニ決行セザル可カラザルハ、当泉字湯ノ沢ニ現存セル癩患者入浴場ヲ移転セシムルヨリ急要ナルモノ又アラザルナリ、従前ハ其集団区域ト本町トハ充分ナル間隔ヲ有シタリシガ故ニ、左迄憂フ可キアラザリシガ、住民ノ増加ニ伴ヒ自然ニ家屋接続擲比スルニ至リシハ、已ヲ得ザルニ出ツト雖モ大ニ憂フ可キ事タリ、該病ノ已ニ伝染性タル事ヲ医学上ニ於テ断定セラルハ、今日ニ至リテハ、該患者入浴場ヲシテ尚一層隔離セル位置ニ移転セシメ、完全ニ病毒ノ散漫ヲ防止シ、多数来浴者ヲシテ安ンジテ滞浴セシムルノ手段ヲ講スルハ焦眉ノ急タルト共ニ、一方ハ彼ノ無告ナル憐ムベキ患者ヲシテ、或ハ花卉ヲ栽培シ、或ハ造林ニ、或ハ園芸ニ、各自ノ好ム所ヲ為サシメ、其他百般ノ娛樂的設備ヲ施シ、以テ余命ヲ全フセシメンコト、社会人道ノ上ヨリシテ當ニ努メザル可カラザル事ナルガ故ニ、本町ハ之レガ移転費ヲ約式万五千円ト概算シ、一廓ノ地ヲトシ別紙設計書ノ通り之レヲ断行セントシ、其候補地トシテ字滝尻原ノ最モ其適當ナルヲ認メタリ、該地ハ現今該患者入浴場ノ下方ニ位スル平原ニシテ當町ヲ距ル約式拾町、其間山林原野及小山脈ノ之レヲ横切ルアリテ、自然ノ境界ヲ為スガ故ニ其病毒ヲ防止スルニ於テハ充分ナリトス、曩ニ本町ノ此地ヲ以テ候補地ト予定シタルハ浴場トシテ總テノ点ニ於テ欠クル所ナキヲ認メタルニ依レリ、他ニ面積水利等ニ於テ同一ノ地点ナキニアラズト雖モ、源泉引用ニ不便ナルカ、又ハ遠距離ニシテ中途温泉冷却スルノ恐レアリ、一長一短滝尻原ノ外之レガ適當ナル者ノ他ニ求ムルコト能ハズ、故ニ該候補地ニシテ特買ヲ受クルコト能ハザルニ於テハ、該患者入浴場ヲ決行スルコトヲ得ズ、為メニ本町ガ今日迄予期セシ事業ハ全ク空泡ニ帰シ、本邦屈指ノ本泉ハ永久ニ發展スルノ期ヲ失ヒ、温泉場トシテ起ツ能ハザルニ至ルハ、炳然タル事実ナリトス、故ニ該候補地ノ一日モ早く之レガ特買ノ恩命ニ浴スル様、御詮議相成度願意徹底ノ上ハ、諸般ノ施設ヲ速ナラシメ、本泉ヲシテ益向上發展セシメンコト、本泉ノ幸福タルノミナラズ、本邦理学的療法ノ上ニ於テ貢獻スル所尠少ニアラザルベシ、茲ニ計画書其他相添ヒ請願スル理由ナリ

秘第式式七号

特種部落移転反対陳情ノ件

長野原警察分署長

明治四十五年七月十日

警部 ○○○○ 印

警務長 ○○○○ 殿

部内草津町ニ於テハ、客月二十一日、臨時町会ヲ開キ、字湯之沢特種部落移転費トシテ、金三万円町債募集ノ決裁ヲ経タル処、関係部落民、之ヲ聞知シ、昨九日總代トシテ、左記拾壺名同町役場ニ出頭、町長ニ面接ヲ乞ヒ、同部落ヲ他ニ移転云々ニ付テハ、関係住民ノ

甚々迷惑トスル処ナレハ、其隔離装置ニ付テハ御指令ニ応シ、如何ナル方法トモ必ス実行ス可キニ付、現在ノ位置ニ居住シ得ラル、様、御尽力ヲ乞フ云々ト陳述ノ上、引取りタル趣ナルモ、別ニ不穩ノ言動ヲ弄セシモノ無之由ニ有之候条、尚其行動ニ付テハ綿密厳戒中ニ有之候モ、此段報告ス

総代人氏名 ○○○○ (11名 連名)

以上

特種部落移転補助申請ニ関スル明細書

一、草津町総戸数 二六六戸 人口一、三三九人

内

一、湯澤特種部落現在

戸数 六九戸 人口二七六人

金六百九円也	癩患者移転地トシテ当町内滝尻原国有原野三十四町八反歩払下代金
金参千円也	湯ノ沢部落宅地壹千坪買収額 一坪当金参円ノ見込
金壹万五千六百円	家屋七拾八棟移転費平均貳百円当
金五百円也	移転奨励手当
金壹千円也	貸家五棟新設代 但壹棟貳拾坪 一坪当拾円ノ見込
金千五百十貳円也	水道費貳拾壹町分木樋壹間金壹円貳拾銭当
金壹千参百貳拾六円也	温泉引用費拾七町分木樋壹間金壹円参拾銭当
金五百貳拾壹円也	新道開鑿費
	新道開鑿延長千四拾貳間、幅貳間ニシテ壹間当金五拾銭
金壹千円也	学校設立費(器具其他ハ別ニ町費負担)校舍五拾坪 壹坪当金貳拾円
金壹千円也	病院出張所設立費 建坪五拾坪 壹坪当貳拾円
金百貳拾円也	測量費
	温泉、水道、市街地、造林地等ノ測量月当一人一日金貳円六拾日分
金壹千七百四拾円也	市街地整理費(街路開鑿延長間数七百五拾間、幅拾間ニシテ壹間当金貳円及宅地開鑿反別貳町歩 壹町歩ニ付人夫参拾人トシ、一人一日金四拾銭当)
金七拾壹円五銭六厘	遮断林造成費
	造林反別五町八反参畝拾歩ニシテ松、落葉松ノ苗木合計貳万貳千貳百五本 此代金四拾四円四拾壹銭 百本ニ付貳拾銭 植付費金貳拾六円六拾四銭六厘 百本ニ付金拾貳銭ノ当
金参円八拾四銭	防風林造成費
	造林反別壹町貳反四畝七歩ニシテ、松、落葉松ノ苗木合計壹千貳百本 此代金貳円四拾銭 百本ニ付金貳拾銭、植付費金壹円四拾四銭百本ニ付拾貳歩当リ
金六百参拾八円四拾銭	畑開墾費
	市街地ノ一部ニ畑五町参反貳畝歩 開墾ノ見込ニシ、壹反歩ニ付、人夫参拾人トシ、一人一日金四拾銭当
金五拾円也	薪炭用雑木林設定費
金五百円也	雑費
金八百八円七拾銭也	予備費
合計金参万円也	

国庫補助金下附請願書

茲ニ当地癩患者特種部落ノ移転ヲ決行セムカ為メ、国庫補助ヲ請願スルニ当リ、先ツ当温泉發達ノ沿革ヲ略叙シ、以テ聊カ将来ノ發展ヲ予測シ、兼ネテ右移転ヲ必要トスル理由ヲ

説明スル一助ニ供セムト欲ス

古来天下ニ著名ナル草津温泉ノ沿革ヲ考フルニ、神代ハ邈トシテ徴スヘカラス、景行天皇ノ四十年、日本武尊東夷征伐ノ帰途之ヲ発見セラレタリト云フノ説ハ信ヲ措クニ足ラム、現ニ草津ノ総鎮守タル郷社白根神社ニハ、日本武尊ヲ奉祀シテ神体ト為セルコト其一証タリ、元正天皇ノ養老五年、大和国菅原寺ノ僧正行基此地ニ曳錫シ、建久四年三月、源頼朝ノ浅間山麓ニ遊獵スルヤ、山河ヲ跋涉シテ地勢風土ヲ視察シタル途次、此地ニ浴養シタルコトアリ、今ノ白旗之湯（共同浴室ノ一）即チ是ナリ、当時幕府ノ勢力隆々タリシカハ、將軍ノ入浴以来僧俗ノ来浴者、頓ニ多キヲ致シタルハ争フヘカラス、永禄年間、武田信玄ノ上州ヲ侵掠シテ、其領土ト為スヤ、草津温泉ヲ以テ傷病者ノ療養所、即チ現今ノ所謂野戦病院ト為シタルコトアリ、蓋シ当鉱泉ノ万病ニ殊効アルニ、其因スルコト勿論ニシテ、効驗ノ顕著ナルコトハ、更ニ縷説スルヲ要セス、是ヲ以テ其地深山幽谷ノ間ニ介在シ、天險ノ遮障アルニ拘ラス、凡ソ医療ノ及ハサル不治又ハ難治ノ患者ハ、遠近ヲ問ハス争ヒ来リテ、此ノ天恵ニ浴セムト欲シ、漸次地域ノ拡張ヲ強要スルコト、為レリ

明治ノ聖代ニ至ルニ及ヒ、交通ノ便利ト共ニ内外国人ノ来浴スルモノ、年々歳々其数ヲ増加シ、特ニ独逸ノ医学大家ベルツ博士ノ如キハ、温泉ノ性質氣候ノ關係上治病ニ大効アルコト世界無比ナリト嘆賞シ、之ヲ公唱スルニ至リタルヲ以テ、当温泉ノ名声ハ愈々世界ニ喧伝セラルハニ至レリ

当鉱泉ノ万病ニ靈効アルコト既説ノ如クナルヲ以テ、入浴者ノ増加ハ自然的趨勢ト謂フヘシ、特ニ古来不治ノ病症ト称セラル、癩病患者並ニ難治ノ梅毒患者ノ如キニ至リテハ、当温泉ヲ唯一ノ救療所ト認ムルヲ以テ、此等患者ノ数ハ漸次増加シ、就中癩患者ノ如キハ、病症ノ性質上長期入浴ヲ要スルモノナレハ、殆ト永住ノ覚悟ヲ以テ来浴スルカ故ニ、該患者ハ比較的長足ノ増加ヲ示シ、遂ニ一ノ特種部落ヲ形成セリ、往時ハ癩患者モ他患者並ニ普通住民ト雜居シタルモノナレトモ、世運ノ推移ト共ニ之ヲ分離セシムル必要ヲ認め、明治二十年十月温泉改良会ナルモノヲ設ケ、癩患者全部ヲ挙ケテ之ヲ当町宇湯ノ沢ニ別居セシメタリ、当時該集団区域ト本町トノ間ニハ、充分ナル間隔ヲ保チタルヲ以テ兩者ノ區別判然タリシカ、温泉ノ發達ニ伴ヒ相互ノ部落亦次第ニ拡大シ、今ヤ兩部落ハ軒檐密接シテ境界ヲ弁スヘカラス、從ツテ兩者間ノ交通来往亦漸ク容易頻繁ニ赴キ、納税其他公署ニ対スル用件、電話（湯ノ沢ニ電話ナク公衆電話ヲ使用ス）、郵便貯金、信書ノ發送乃至学童ノ登校等、止ムヲ得サル交通ハ勿論、金錢物品ノ貸借売買等、總テ日常ノ用務ヲ弁セムカ為メ、無差別ニ交通シ虚心平氣、敢テ自ラ怪ムナキノ状態ヲ馴致スルニ至レリ

交通機関ノ完備セサル今日ニ於テ、当地ノ状態ハ既ニ此ノ如シ、想フニ暮年ナラスシテ貫通スヘキ草津鉄道竣工ノ曉ニ及ハ、浴客ノ倍蓰ト共ニ、右ノ如キ混沌危険ノ状態ハ、亦必ス旧時ノ比ニアラサルハ、知者ヲ俟テ後チ知ル可ニ非ス

夫レ癩病ノ伝染性ヲ有スルコトハ、医学上ノ公定説ニシテ、既ニ明治四十年法律第十一号ヲ以テ癩予防ニ關スル件ヲ規定シ、国家事業トシテ全国ニ数箇ノ癩療養所ヲ設置シ、各其区域ヲ画定セラレタリ、蓋シ該患者ヲ他ト隔離スル必要ハ、主トシテ公衆衛生上、病毒ノ伝播ヲ予防スルニ在リト雖モ、同時ニ亦彼等ノ醜態ヲ公衆ノ眼界ヨリ遮蔽シ、以テ風紀ヲ維持シ且ツ病者非病者ヲシテ相互ニ不快不安ノ念ヲ發セス、悠々自適其生ヲ遂ケシムルノ利益アリ、殊ニ当地ノ如ク靈泉ヲ慕フテ四方ヨリ麇集シ来ル浴客、日ニ月ニ多キヲ加フル地域ニ在リテハ、右法律ノ保護ニ依リ隔離ノ励行ヲ感スルコト極メテ切ニシテ、独リ浴客ノ利害ニ關スルノミナラス、亦實ニ当町ノ盛衰ニ關スル問題タリ、詳言セハ当草津温泉場ハ、多数癩患者ノ集中スヘキ特殊狀況ノ下ニ在ルカ故ニ、前記協会ニ由リ既ニ指定セラレタル癩療養所ノ外、別ニ一ノ特立療養所ヲ設置スヘキ天職ヲ有セリ、從ツテ当町々民ハ、此ノ問題ヲ解決セムカ為メニハ、如何ナル負担ヲモ辞セサル覚悟ヲ有スルヤ、固ヨリ論ナシ

是故ニ当町ニ於ケル癩患者特種部落ヲ完全ニ他ト隔離シ、一ハ以テ普通浴客ノ憂慮ヲ除キ、一ハ以テ彼レ可憐ノ患者ヲシテ平穩ニ療養スルコトヲ得セシムル為メ、現存癩患者部落ヲ他ニ移転セシムルノ議ハ、一般ノ熱望是認スル所ナレトモ、唯其ノ經費負担ノ実力ニ乏シキカ為メ、數年来ノ宿題トシテ未タ解決スル運ニ至ラサルハ、實ニ遺憾トスル所タリキ、然ルニ前述ノ如ク、鉄道ノ貫通ニ伴フテ、愈々益々人口ノ増加ヲ来サムコト目前ニ迫レル

今日ニ及ヒテハ、最早寸時モ猶予放擲スルヲ容サス、乃チ今般癩患者部落全部ヲ挙ケテ之ヲ当町ノ東方約二十町ノ地ニ移転セシムルノ計画ヲ立テ、既ニ町会ノ議決ヲ経タリ、而シテ該移転地ノ設計ニ関シテハ、可及的經濟ノ方法ヲ採リ、而カモ多少該患者ノ希望ヲ参酌シ敢テ彼等ヲ強要セス、彼等ヲシテ自ラ好ミテ新区域ニ移住スルノ念ヲ起サシムヘク設備スルノ要アルヲ以テ、別紙調書ノ如ク、其經費ハ実ニ参万円ニ達セサルヲ得ス然ルニ町費多端ノ今日ニ当リ、斯ノ如キ多額ノ經費ハ、到底町民ノ負担ニ堪ヘサル所ナルヲ以テ、国庫ノ補助ヲ仰カサルヲ得サルニ至リタル所以ナリ
伏シテ願ハクハ、当町現時ノ窮境ト町民ノ意衷トヲ諒察セラレ、且ツ右事業ノ性質ヲ酌量シ、該經費参万円ノ内国庫ヨリ相当ノ補助金御下附相成度、乃チ参考書類添付ノ上、町民ヲ代表シ、謹而請願候也

大正元年八月二日

群馬県吾妻郡草津町長 阿部 重朗 印

内務大臣 原 敬 殿

群馬県ハンセン病行政資料調査報告書
(平成 27 年 3 月発行)

群馬県健康福祉部保健予防課
〒 371-8570 前橋市大手町 1-1-1
電 話 : 027(226)2607
F A X : 027(223)7950